

令和2年12月4日（金）午後1時30分～4時00分

於・市役所3階庁議室

第1回「小平市経営方針推進委員会」要録

出席者

【委員】石川久委員長、川口幸子副委員長、竹田広輝委員、津曲秀一郎委員、中川稔進委員、丸尾哲也委員

【市側】行政経営担当部長、行政経営課長、行政経営課長補佐2名、政策課課長補佐（オブザーバー）

1 経営方針推進プログラムの策定について

（津曲委員）

第3次行財政再構築プランの冊子に個別のプログラムが掲載されているが、具体性がないように見えるし、同じような項目が並んでいる。これとは別に具体的な施策があるのかもしれないが、第四次長期総合計画を実現させていきます、そのための施策がこれです、では具体策に欠ける。目的に向けて具体的にどう取り組んでいくのかを今後知りたい。

企業にも言えることだが、従業員や職員数は減っているのだから、どうやったら人件費は減っていくものである。人件費が減ったことが、推進プログラムとして取組んだ効果なのかが見えづらい。新たなプログラムでは、ねらいを定めて取り組んでいただきたい。

（中川委員）

新たな委員会になったが、これまでの行財政再構築推進委員会からの継続性も大事である。旧委員長、副委員長、また他の委員がこれまで指摘してきた様々な事柄について、新たな委員へ引き継いでほしい。第3次行財政再構築プランの冊子は平成29年に作成されたものであり、その後3年間積み重ねてきた議論がある。そこを踏まえた議論としていきたい。

（丸尾委員）

行政の進捗管理は、みんな達成しました、になりがちである。全く達成できていない、もなければ、達成しすぎている、もあまりない。どこの自治体もそうである。本当に達成していないものと、達成しているからこれ以上やらなくていいというものとの、分けて議論した方がいい。

（石川委員長）

予定されている3回の会議の中でプログラムをまとめていくためには、具体的な事務局案が出てきた段階で、個別に意見を出し合い、より突っ込んでいく、という認識で進めていけたらと思う。

（竹田委員）

新しい第四次長期総合計画は12年という計画期間となっており、基本構想ということもあって具体的なものは書かれていない。これまでの行財政再構築プランについては、これまでどのような

ことをしてきたのか示していただければ、今後大局的な視点で見ていく際の参考にできると思う。

(川口副委員長)

目的と手段を間違えないように組み立てていただきたい。指標についても、後から評価がしやすいような成果指標とすることも大事である。何々事業が何件達成しました、では達成するとどうなるのかという絵がないと、数字を追うだけの遊びになってしまうので、指標の根拠づけをしっかりとしてから作りあげていくとチェックがしやすくなる。

(石川委員長)

川口副委員長のご指摘はもっともであるが、実は大変厳しい話である。指標を参加者とするものなどは、他の自治体でもよくあるものであり、他にないのかというと、探せばあるのだが、わかりやすいのが参加者である。それで何が進んだかかというと、何もない。そういう意味では、指標の設定というのは大変難しく、プログラムの命でもある。評価は目印がないとできないので、ここまでいったらこう、ここまでいったらこう、その先はこう、という指標の作り方に最大限の工夫をしないとその後の評価ができない。事務局はそのあたりの視点も意識して作成をしていただきたい。